

### 第3代会長挨拶（高橋五郎）

2018年11月25日、大東文化大学に於ける全国大会に合わせて開催された理事会に於いて、本学会第3代会長に互選されました。本学会は厳善平初代会長および丸川知雄第2代会長のもとで、日本に於ける中国経済研究者の拠点として、国内はいうに及ばず、中国、韓国、東南アジア、欧米へとその名を轟かせる発展の道を歩んで参りました。できますならば、今後に於きましても、その勢いを緩めることなく、任期を全うしたいと存じておりますので、なにとぞよろしく願い申し上げます。

先2代の会長のもと、さらには、2002年発足の本学会の前身の中国経済学会のもとで取り組まれてきた数々の研究や運営の蓄積を振り返り見ますに、組織運営の在り方等に関しては、時の変化に合わせ、若干、保修もしくは補強すべき点があるようには存じますが、新体制のもとで、取り立てて変革すべきことはない、との印象を持っております。

今後、これまでの組織運営の基本的あり方を踏襲しながら、会員の皆様の学術研究のいっそうの深化と発展のためにいささかでもお役に立つことができるならば、望外の喜びと存じます。

さて、ご承知の通り、昨今の国内に於ける中国経済研究の担い手は多角化しており、大学や専門の研究機関にある現・退研究者のみならず、大手企業や金融機関に於けるいわゆる企業研究者の幅も広がりを見せています。

企業や組織の枠組みがあるにせよ、そのようなお立場の研究者の研究水準には、目を見張るものがあります。グローバルに展開する企業や金融機関の優れた情報収集能力や調査力、収集した情報についての高い解析能力と発信能力、個々の企業や組織の国際化したネームバリューなども、その背景にあるのではないかと察します。

これらの中には、すでに本学会の会員となっておられる方もおいでとは存じますが、できれば、さらに増えるような、あるいはそれらの方々が籍を置かれる企業や組織との共同の研究活動等に関する工夫も探るべきかと存じます。

中国経済研究に関しまして企業や組織には、それぞれ理念や枠組みがあるはずですので、場合により学術研究とそれら企業研究者との間には何らか溝のようなものもありうるでしょうが、それは本学会の会員間個々の研究テーマや方法、理念にも見られることでもあり、さほど大きな障害にはならないともいえましょう。

これに類する活動形式は、すでに、本学会が主宰する各種のセミナーや研究会で取り組まれてきたところであり、かつまた会員の方々の多忙さとも相俟って、これまで以上のことはできない可能性が高いとは存じますが、継続的な発展を念じてみたいと存じます。

また一部の私学では、学会参加のための交通費や宿泊費も個人負担となる場合もあるようです。大学の研究費削減の動きが研究者に及ぼす問題は、国公立大学に限ったことではありません。

幸い、本学会は日本経済学会連合の会員でもあり、この全国的な組織を通じ、学会参加に必要な個人負担の大きな大学に対し、会員の要請により、学会参加費用確保または助成拡大の願いをするなどのことも検討してよいかと存じます。

これらは、実際に取り組むに致しましても、会員の皆様のご意向を尊重し、そのうえで、理事会に於いて、見解や取組み方向を集約していくべきことであることはいまでもありません。

以上のほか、もし何か、取組むべき課題等についてお気づきの点がありましたら、まずは総務担当理事（寶剣先生）にお申し越し下さいますようお願い申し上げます。

(2018年11月30日記)